

見て！見て！！もう一人の〇〇なわたし — 「A 表現（2）」 —

～自分の姿を段ボールに写し取り，もう一人の自分を表そう～

広島市立東野小学校 河野真由美

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:55 体育館

2 学年・組 第4学年2組(男子14名 女子14名 計28名)

3 題材について

- 本学級の児童は、絵をかいたり、物をつくったりすることが好きな児童が多く、自分のイメージをしっかりとって表現できる児童が多い。また、時間がかかっても最後までいねいに自分の作品と向き合う姿勢も育っている。反面、イメージが浮かばないために何をしたらよいかわからなかったり、発想に時間がかかったりする児童もあり、アイデアを次々に出したり、発想を広げたりすることには個人差が見られる。創造的な技能についても、用具を正しく使うことや材料に応じて適切な用具を選ぶことができる児童がいる一方で、これまで経験してきた表現方法や材料・用具の扱いを選択したり、応用したりしながら、自分なりに表現を工夫することに苦手意識をもっている児童もいる。鑑賞に関しては、表現活動途中の作品やできあがった作品を自由に見合い、友だちのよい所を素直に感じ、認め伝え合う姿が多く見られる。
- 本題材は、自分の姿を段ボールの上に型取り、絵の具で色を付けたり、糸や布を貼り付けたりして等身大のもう一人の自分をつくる題材である。自分の思いをもっているいろいろなポーズを取り、等身大の自分とともに得意なものや好きなものと一緒に表現することで、今の自分を見つめたり、他者に自分を知ってもらったりすることができると思う。子どもたちは、段ボールの上で形を工夫してポーズを取り、友だちに写し取ってもらおうという活動を通して、友だちと一緒に楽しく交流し合い、表現意欲を高めていく。型取りした自分の姿に絵の具で色を付けたり、糸や布を貼り付けたりしながら自分のイメージをふくらませ、試行錯誤しながら表現を工夫することができる。また、段ボールカッターを正しく安全に使ったり、工夫して色を付けたり、適した方法で接着したりすることで材料や用具の扱い方を身に付けることができると思う。また、そのことによって、自己肯定感を高め、互いのつながりやかかわりを深めることができると期待している。
- 指導に当たっては、自分のポーズや自分の好きなもの・得意なものを考える時間を設けるとともに、「友だちに紹介したい自分とは、どんな自分なのか」ということについてイメージをふくらませていきたい。しっかりと自己を見つめる時間を設けることで、等身大のもう一人の自分に思い入れができ、表現意欲が高まるものと思われる。また、できたら完成披露パーティをすることを伝え、「自分から等身大の自分へ…手紙コーナー」や「等身大の自分にインタビューをしてみよう！コーナー」があることも知らせて、それらを楽しみに意欲的に活動できるようにしたい。表現については、型を取る際にペアをつくり、友だちと形を試したりしながら、かかわって活動できるようにする。写し取る時は、体のラインだけでなく髪や顔なども、鏡で見ながらかき加えるようにする。絵の具を使う時は、試し紙を用意して、児童が表現方法を試しながら工夫できるようにしたり、友だちの表現方法を自然に取り入れられたりするような学習環境も工夫する。また、接着する時は、のり下紙を用意して、のりや木工用接着剤の量を考慮しながら、材料に適した方法で貼ることができるようにしたい。

4 題材の目標

- 自分の姿を思い浮かべて段ボールに形を写し取り，表現の仕方を工夫しながら等身大の自分をつくる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	段ボールの上に表したいポーズを取り、型を取ったり、顔や髪をかいたりすることを楽しもうとしている。	もう一人の自分に思いをふくらませ、表したいイメージに合わせて形や色、組み合わせを考えている。	①表したいもののイメージに合わせて、段ボールカッターで型を工夫しながら切り取っている。 ②表したいもののイメージに合わせて、布を貼ったり絵の具を混ぜたりするなど表し方を工夫している。	自他の作品を鑑賞し、形や色、表し方による感じの違いなどをとらえ、友だちの思いや工夫を感じ取っている。

6 指導と評価の計画 (全 6 時間)

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 (2 本時間 1 / 2)	型取りをする。 ・自分が表したい等身大の自分について考え、ペアでいろいろなポーズを試しながら型を取る。 ・鏡を見ながら、髪や顔をかき、段ボールカッターで切り取る。	ア (対話) (ワークシート) ア (観察) (作品) ウー① (観察)	・自分を具体的にイメージし、試行錯誤しながら意欲的に取り組もうとしている。 ・顔や髪をかくことを意欲的に楽しんで表現している。 ・段ボールカッターを正しく安全に使い、形を工夫して切り取っている。	・自分が好きなものや得意なことからもイメージさせる。 ・何かをしている様子を思い浮かべるよう声かけをする ・手の位置や置き方についての指導をする。
第二次 (3 時間)	色を付ける。糸や布を貼る。 ・糸や布を使って貼る。 ・絵の具を使い、色を付ける。	ア (観察) イ (観察)(作品) ウー② (観察)(作品)	・進んで布を貼ったり色を付けたりともう一人の自分をつくることを楽しもうとしている。 ・イメージに合わせて、形や色、材料の使い方やつくり方を工夫している。	・着色や接着など、表現に適した方法が選べるよう選択肢を準備する。 ・子どもの思いを聴いて、表現方法を示したり、友だちの方法を見に行きよことを知らせたりする。
第 1 三時間	完成披露パーティをする ・等身大の自分を紹介する。 ・自分に手紙を書いたり、自分にインタビューをしたりする。	エ (発言) (ワークシート)	・がんばっていることや得意なことなどを話し、友だちと意見を交流しながら、自他の違いや思いを感じ取っている。	・作品が完成したことを喜び、互いに意見交流することで、関わりをもたせる。

7 本時の目標

いろいろなポーズを試しながら自分の姿を段ボールに写し取り、意欲的に楽しんで表現しようとする。

8 準備物

(指導者) 教師の試作 (段ボールでつくった等身大の自分)

(児童) 段ボール 鉛筆 油性ペン 鏡

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1. 前時の学習を想起し、本時の学習内容をつかむ。	○本時の学習意欲を高めるような導入を工夫する。	
めあて 自分の思いをこめていろいろなポーズを取り、もう一人の自分をつくろう。		
2. 学習内容を読んで、感じたことを発表する。	○どのようなポーズを取りたいか、その思いも発表させる。	ア 観察 作品
3. ペアになって、お互いを段ボールの上に写し取る。	○写し取る時は、体のラインを丁寧につなげていくことを説明する。写しにくいところは、後からかき加えてもよいことを伝える。	
4. 鏡を見ながら、自分の顔や髪の毛などをかき加えていく。	○活動時間を知らせ、見通しをもってつくることのできるようにする。 ★前時の学習から、子どもたちそれぞれのイメージを把握しておき、困っている児童がいれば、思いを聞いて助言できるようにする。	
5. 後片付けをする。	○みんなで協力して片付けるよう促す。	
6. 学習のふりかえりと次時の予告をする。	○色を付けたり、装飾したりすることを伝える。	

見て！見て！！もう一人の〇〇なわたし — 「A 表現（2）」 —

～自分の姿を段ボールに写し取り，もう一人の自分を表そう～

広島市立東野小学校 川村勇太

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:55 4年2組・3組教室

2 学年・組 第4学年3組（男子14名 女子15名 計29名）

3 題材について

- 本学級の児童は、絵をかいたり，物をつくったりすることが好きな児童が多く，自分のイメージをしっかりとって表現できる児童が多い。また，時間がかかっても最後までいいに自分の作品と向き合う姿勢も育っている。反面，イメージが浮かばないために何をしたらよいかわからなかったり，発想に時間がかかったりする児童もあり，アイデアを次々に出したり，発想を広げたりすることには個人差が見られる。創造的な技能についても，用具を正しく使うことや材料に応じて適切な用具を選ぶことができる児童がいる一方で，これまで経験してきた表現方法や材料・用具の扱いを選択したり，応用したりしながら，自分なりに表現を工夫することに苦手意識をもっている児童もいる。鑑賞に関しては，表現活動途中の作品やできあがった作品を自由に見合い，友だちのよい所を素直に感じ，認め伝え合う姿が多く見られる。
- 本題材は，自分の姿を段ボールの上に型取り，絵の具で色を付けたり，糸や布を貼り付けたりして等身大のもう一人の自分をつくる題材である。自分の思いをもっているいろいろなポーズを取り，等身大の自分とともに得意なものや好きなものと一緒に表現することで，今の自分を見つめたり，他者に自分を知ってもらったりすることができると思う。子どもたちは，段ボールの上で形を工夫してポーズを取り，友だちに写し取ってもらおうという活動を通して，友だちと一緒に楽しく交流し合い，表現意欲を高めていく。型取りした自分の姿に絵の具で色を付けたり，糸や布を貼り付けたりしながら自分のイメージをふくらませ，試行錯誤しながら表現を工夫することができる。また，段ボールカッターを正しく安全に使ったり，工夫して色を付けたり，適した方法で接着したりすることで材料や用具の扱い方を身に付けることができると思う。また，自己を見つめ直し，自分に自信のあることや自分自身がこうありたいと願うものを思いを込めて表現することで，自己肯定感を高め自分に自信を持ち，友だちとのつながりやかかわりを深めることができると期待している。
- 指導に当たっては，自分のポーズや自分の好きなもの・得意なものを考える時間を設けるとともに，「友だちに紹介したい自分とは，どんな自分なのか」ということについてイメージをふくらませたい。しっかりと自己を見つめる時間を設けることで，等身大のもう一人の自分に思い入れができ，表現意欲が高まるものと思われる。また，できたら完成披露パーティをすることを伝え，「自分から等身大の自分へ…手紙コーナー」や「等身大の自分にインタビューをしてみよう！コーナー」があることも知らせて，それらを楽しみに意欲的に活動ができるようにしたい。表現については，型を取る際にペアをつくり，友だちと形を試したりしながら，かかわって活動できるようにする。写し取る時は，体のラインだけでなく髪や顔なども，鏡で見ながらかき加えるようにする。絵の具を使う時は，試し紙を用意して，児童が表現方法を試しながら工夫できるようにしたり，友だちの表現方法を自然に取り入れられたりできるような学習環境も工夫する。また，接着する時は，のり下紙を用意して，のりや木工用接着剤の量を考慮しながら，材料に適した方法で貼ることができるようにしたい。

4 題材の目標

- 自分の姿を思い浮かべて段ボールに形を写し取り，表現の仕方を工夫しながら等身大の自分をつくる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	段ボールの上に表したいポーズを取り，型を取ったり，顔や髪をかいたりすることを楽しもうとしている。	もう一人の自分に思いをふくらませ，表したいイメージに合わせて形や色，組み合わせを考えている。	①表したいもののイメージに合わせて，段ボールカッターで型を工夫しながら切り取っている。 ②表したいもののイメージに合わせて，布を貼ったり絵の具を混ぜたりするなど表し方を工夫している。	自他の作品を鑑賞し，形や色，表し方による感じの違いなどをとらえ，友だちの思いや工夫を感じ取っている。

6 指導と評価の計画 (全 6 時間)

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 2時間	型取りをする。 ・自分が表したい等身大の自分について考え、ペアでいろいろなポーズを試しながら型を取る。 ・鏡を見ながら、髪や顔をかき、段ボールカッターで切り取る。	ア (対話) (ワークシート) ア (観察) (作品) ウー① (観察)	・自分を具体的にイメージし、試行錯誤しながら意欲的に取り組もうとしている。 ・顔や髪をかくことを意欲的に楽しんで表現している。 ・段ボールカッターを正しく安全に使い、形を工夫して切り取っている。	・自分が好きなものや得意なことからもイメージさせる。 ・何かをしている様子を思い浮かべよう声かけをする ・手の位置や置き方についての指導をする。
第二次 本時2時間 3時間	色を付ける。糸や布を貼る。 ・糸や布を使って貼る。 ・絵の具を使い、色を付ける。	ア (観察) イ (観察)(作品) ウー② (観察)(作品)	・進んで布を貼ったり色を付けたりともう一人の自分をつくることを楽しもうとしている。 ・イメージに合わせて、形や色、材料の使い方やつくり方を工夫している。	・着色や接着など、表現に適した方法が選べるよう選択肢を準備する。 ・子どもの思いを聴いて、表現方法を示したり、友だちの方法を見に行ってもよいことを知らせたりする。
第三次 1時間	完成披露パーティをする。 ・等身大の自分を紹介する。 ・自分に手紙を書いたり、自分にインタビューをしたりする。	エ (発言) (ワークシート)	・がんばっていることや得意なことなどを話し、友だちと意見を交流させたりしながら、自他の違いや思いを感じ取っている。	・作品が完成したことを喜び、互いに意見交流することで、関わりをもたせる。

7 本時の目標

表したいイメージに合わせて、形や色、材料の使い方やつくり方を工夫している。

8 準備物

- (指導者) のり下紙, 試し紙, 丸筆, 平筆, 布, 糸など
(児童) 絵の具道具, 接着剤, はさみ, 布, 糸など

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 これまでの学習を想起し、本時の学習内容をつかむ。 めあて もう一人の自分らしくなるよう、表し方を工夫しよう。		
2 道具の使い方を確認する。	○道具の使い方について気をつけることを確認する。	
3 自分のイメージに合うように、表現方法を工夫して表す。 ・布を貼る。 ・絵の具などで彩色する。	○片付けの時間を示し、活動の見通しをもたせる。 ○試し紙を用意し、自分の思いに合った色を試してから表現することができるようなコーナーをつくる。 ★表現に困っている児童には、子どもの思いを聴いたり、友人の表現を見たりして、自分の思いに合った表現を見つけられるよう声掛けをする。	ウー① (観察・作品)
4 片付けをする。	○みんなで協力して片付けるよう促す。	
5 活動のふりかえりと次時の予告をする。	○めあてをふりかえり、次時は仕上げることを伝える。	